

まちづくりの視点から
公共施設のあり方を考えよう

野口和雄（都市プランナー）

1、これからの社会と「まちづくり」

- ① 少子化・高齢化社会から人口減少社会へ
- ② 人口減少社会が地域にどのような影響を与えるか

2、公共施設の実態とこれからの公共施設のあり方

- ① 作り過ぎた公共施設と管理問題
- ② 国や自治体による『公共施設の統合縮小』政策
- ③ 公共施設配置の原則を忘れた集票の為の公共施設建設
- ④ 公共施設の適正な配置って何だ？

3、新しい公共施設

- ① コミュニティ施設 1
- ② コミュニティ施設 2
- ③ 小学校と福祉施設の合築

4、みんなで“パブリックスペース” “サードプレイス”を作ろう

- ① 空間をつくる原則を伝授します
- ② 市民がつくった“サードプレイス”（地域の福祉は地域の市民が担う）

5、ワークショップによる意見交換

紹介：都市プランナー 法政大学法学部、東京都立大学工学部都市計画研究室を経て現職

現在、都市プランナー、法政大学現代法研究所研究員、横浜商科大学非常勤講師、総務省外部専門家、埼玉県景観アドバイザー、横浜市まちづくりコーディネイター、流山市まちづくり相談員、練馬区まちづくり専門家、白井市まちづくり審議会、武蔵野市まちづくり委員会、流山市街づくり委員会、大田区等

著作：「美の条例」（共著、学芸出版）、「都市計画法改正/土地総有の提言」（共著、第一法規）、「都市計画・まちづくり何でも質問室」（共著、ぎょうせい）、「まちづくり条例の作法」（自治体研究社）、「市民のためのまちづくり条例のデザイン」（ユニブックス）、「現代総有論序説」、（共著、ブックエンド）等多数